

トモシンセシス

Tomosynthesis

がんセンターでは腫瘍を的確に把握するため効果的な最新鋭の画像診断機器を導入しています。トモシンセシスは体に触れることなく、5秒間静止するだけでCTのような断層画像が得られる最新の画像診断技術です。放射線被ばくも単純X線撮影と同程度に抑えられます。

最新画像診断技術「トモシンセシス」の有用性

トモシンセシスとは体に触れることなく短時間でCTのような断層画像を撮影する最新の画像診断法です。静止時間は5秒以下と非常に短く、被ばくは単純X線撮影と同程度から2倍程度で、CTとの比較では1/10程度と負担が少ないことが特長です。

主に骨折や腫瘍の有無の診断、治療後の経過観察に用いられます。単純X線撮影ではわかりにくい骨腫瘍内の隔壁構造や溶解像を鮮明に観察でき、CTでは評価しにくい治療後の金属の入った状態においても、トモシンセシスでは金属の影響をあまり受けることなく、骨の状態を詳細に観察できます。

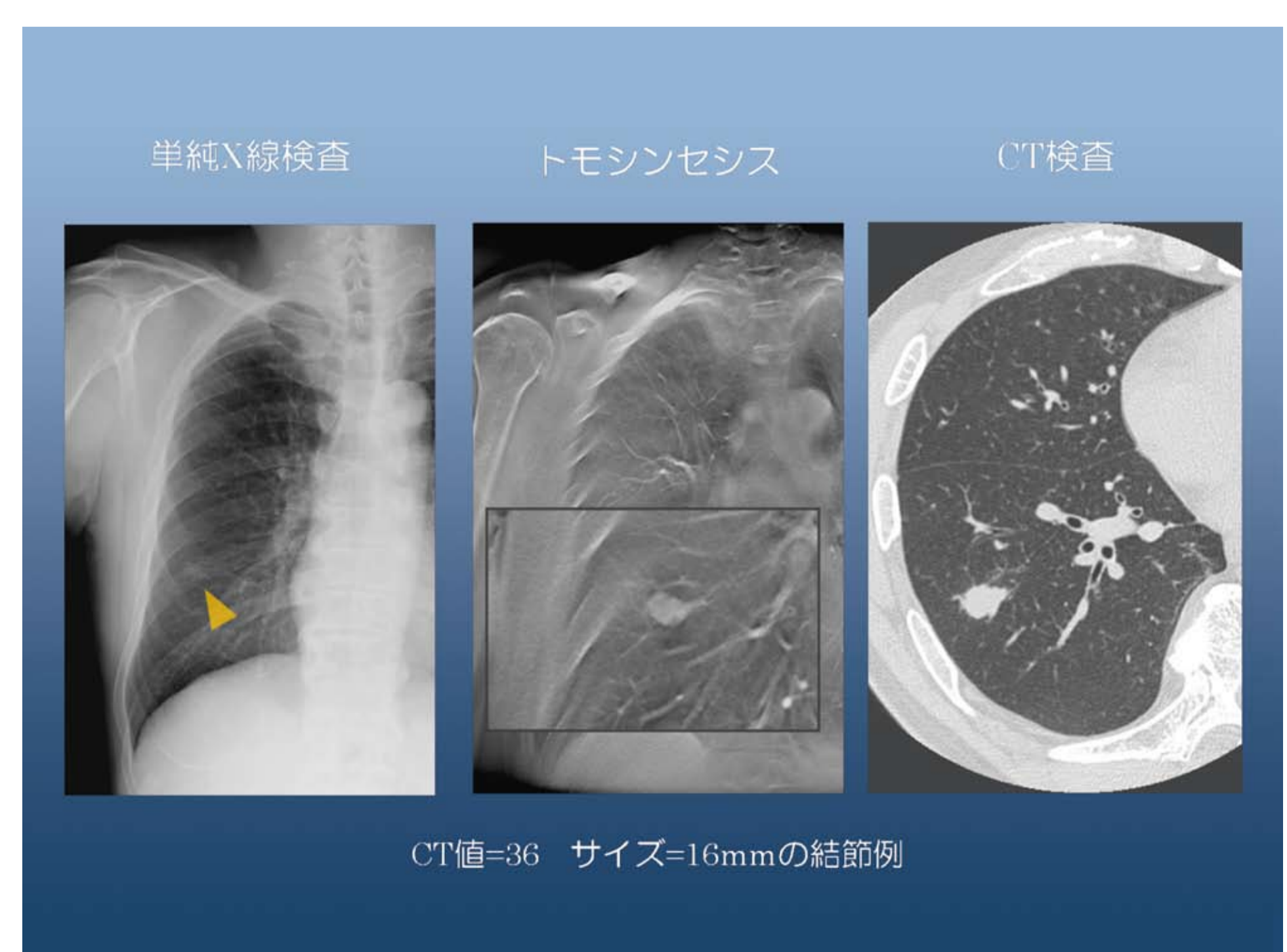
肺癌の検査も同様に単純X線撮影では見えにくかった病変部を鮮明に観察でき、病気の有無や位置の確認が容易に行え、内視鏡などを用いた検査や治療でも効果を発揮します。



トモシンセシス撮影風景



良性骨巨細胞腫



肺の比較画像